

JFIA 誌編集委員長退任にあたって

長岡 勉

大阪府立大学工学研究科物質・化学系専攻



2015年度で本誌の編集委員長を退任しました。就任は2012年でしたので、4年間編集委員長を務めたことになります。私はフローインジェクション法を実用的な分析手法として用いたことはこれまでほとんど無く、そのような者が編集委員長を努めて良いものか、就任が決まった時には大いに悩みましたが、編集委員を始め皆様のご支援でなんとか大任が果たせましたことを感謝しています。

2012年度からの本誌や編集委員会の記録を見返してみると、短い間でしたが少しずつ本誌の内容と編集方針が変化してきたことに気づきました。まず、<FIA Bibliography>はFIA関連の論文の抄録を記載するものでしたが、執筆者の負担が大きい割には、情報検索がWEB上で簡単に行える昨今では効果も限定的と思われ、廃止にしました。代わりに<FIA フロントライン>のシリーズを開始し、若手～中堅の研究者の方に最先端の技術を解説していただき、より効果的な情報発信を目指しました。

また、本誌使命の根幹ともいえるべき研究論文は投稿数の減少が続き、最近では一号あたりなんとか二報を編集委員にお願いして投稿していただくという状況が続いています。この現状を打破すべく、2014年より、JFIA Selection Awardを創設しました。これは褒章委員会の論文賞とは異なり、本誌編集委員の投票に基づいて表彰するもので、その年度の研究論文の中から上位20%程度を選出します。これまで、2014年度、2015年度と2つの論文を表彰しましたが、今後

も皆様から研究論文の積極的な投稿をお待ちしています。

本誌のレベル向上に関しては年二回の編集委員会においても毎回議論を重ねてきましたが、なかなか効果的な方法は無いのが実情です。まずは皆様に本誌投稿論文の積極的な引用をお願いし、本誌の知名度向上を図るのが最善の策かと思います。

本誌は研究論文だけでなく、会員の皆様のコミュニケーションの場としても重要な役割を果たしてきました。これに関しては毎号多彩な報告記事が掲載され、国内外の討論会、セミナーの報告だけでなく、海外留学生の本邦研究室滞在記など、学生レベルの国際交流についても数多く報告され、実際、私の研究室でもICFIAなどでの交流により国外からの学生も留学等の形で多く訪れるようになりました。この際、本誌に掲載された学生の滞在記が大いに参考になりました。また、トピックスやレビュー記事など、タイムリーな企画も行い、今後さらに会員の皆様のお役に立てるように努力することが本誌の使命の一つと思います。

以上、簡単ではありますが、編集委員長退任のご挨拶とさせていただきます。新しい委員長は徳島大学の田中秀治先生にお願いしました。今後はさらに意欲的な編集を行っていただけたと思いますので、皆様方には変わらぬご支援の程宜しくお願い致します。最後になりましたが、JAFIA前委員長の本水先生、酒井先生、また現委員長の今任先生、事務局の石松先生には任期中大変お世話になりました。ここに深く感謝いたします。